

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	産業技術研究科科目群	科目名	産業技術特別講義 2			教員名	細田 貴明
		(英文表記)	Special Lecture of Industrial Technology 2				

概要	ビジネスにおける意思決定は、経営者が行う経営上の意思決定と現場の実務担当者が行う実務的意思決定が存在し、この2つが成功することがビジネスの成功において不可欠である。本講義では、これらの意思決定に関する理論と実務上の手法について論じる。具体的には、経営上および実務上の意思決定の成功例や失敗例を議論するとともに、ビジネス上の事例をもとにした意思決定演習を行う。															
目的・狙い	<p>本講義の受講を通して意思決定理論を学習することで、これまでの意思決定を見直す契機を得て、よりよい意思決定を行うための方法論や方法、手法を学び、実務で活用できるようになることを目標とする。そのためにまず、意思決定理論に関する先行研究のサーベイを通して意思決定理論の役割とその変遷を確認し、経営実務における意思決定理論の意義について理解を深める。この理解をもとに、実際の経営実務に活かすための方法論としてシステム思考アプローチ、システムダイナミクスといったいくつかの方法、手法について学び、実際のビジネス上の事例にそれらを適用することで経営実務における有効性とその限界を見極め、実務的意思決定における活用方法を見出すことを志向する。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(A2) K-08-19-01: 経営戦略手法（レベル3）</li> <li>(A2) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価（レベル3）</li> <li>(A2) K-08-21-01: ビジネスシステム（レベル3）</li> <li>(A3) K-09-22-01: 経営・組織論（レベル2）</li> <li>(A3) K-09-22-01: OR・IE（レベル2）</li> </ul>															
前提知識 (履修条件)	特に前提知識は問わない。															
到達目標	<p>上位到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定理論の経営実務における意義を説明できる。</li> <li>・実務的意思決定における方法論、方法、手法の適用を通して、実務に活用できる力を涵養し、さらにその有効性と限界を論理的に理解する。</li> <li>・システム思考、システムダイナミクス等の手法適用を通して問題の構造を正しく把握し、モデル化ができる。</li> </ul> <p>最低到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定理論の概要を理解する。</li> <li>・実務的意思決定における方法論に関する基本概念を理解する。</li> <li>・システム思考、システムダイナミクス等の方法および手法を実務的意思決定に利用できる。</li> </ul>															
授業の形態	<table border="1"> <thead> <tr> <th>形態</th> <th>実施</th> <th>特徴・留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>録画・対面混合授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対面授業</td> <td> <input type="radio"/> 講義（双方向）           <input type="radio"/> 実習・演習（個人）           <input type="radio"/> 実習・演習（グループ）         </td> <td>           発問とディスカッションを多用した講義形式            単独で意思決定の方法論や方法、手法を使ってみる            グループで課題の解決を試みる         </td> </tr> <tr> <td>サテライト開講授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	形態	実施	特徴・留意点	録画・対面混合授業	—		対面授業	<input type="radio"/> 講義（双方向） <input type="radio"/> 実習・演習（個人） <input type="radio"/> 実習・演習（グループ）	発問とディスカッションを多用した講義形式 単独で意思決定の方法論や方法、手法を使ってみる グループで課題の解決を試みる	サテライト開講授業	—		その他	—	
形態	実施	特徴・留意点														
録画・対面混合授業	—															
対面授業	<input type="radio"/> 講義（双方向） <input type="radio"/> 実習・演習（個人） <input type="radio"/> 実習・演習（グループ）	発問とディスカッションを多用した講義形式 単独で意思決定の方法論や方法、手法を使ってみる グループで課題の解決を試みる														
サテライト開講授業	—															
その他	—															
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義後に配布するワークシート（簡単な質問や感想等）に回答する。</li> <li>・必要に応じて次回講義（特に演習）に必要となる簡単なタスクを課す。</li> </ul>															
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の進め方は、配布するレジュメに基づき解説、事例研究、演習・議論の流れで進める。</li> <li>・事例研究の検討をもとに、演習としてグループ内ディスカッションを実施し、グループ発表を行う。</li> </ul>															

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	オリエンテーション、授業の概要と特長の説明、評価方法の解説 、全授業テーマの紹介、意思決定理論研究の歴史的変遷の説明	—	対面
	第 2 回	規範的意思決定理論（多属性効用理論等）とその批判：実務的意思決定における貢献と限界	—	対面
	第 3 回	記述的意思決定理論（サイモン、モントゴメリ、カーネマンらの理論・概念）の発展から処方的意思決定理論（意思決定支援）への展開	—	対面
	第 4 回	組織的意思決定（バーナード、アンソフ、ドッカーラの概念）と企業文化の及ぼす意思決定のあり方	—	対面
	第 5 回	最近の意思決定研究の紹介：行動経済学や講師の研究成果からの紹介	—	対面
	第 6 回	これまでの講義を踏まえた、受講者の経営実務における意思決定経験の討議	—	対面
	第 7 回	意思決定手法の習得：システムダイナミクス① 概念と利用方法の説明	—	対面
	第 8 回	意思決定手法の習得：システムダイナミクス② 適用事例を用いた検討	—	対面
	第 9 回	前回講義を踏まえた演習	—	対面
	第 10 回	意思決定手法の習得：システム思考（ソフト・システム方法論：SSM）① 概念と利用方法の説明	—	対面
	第 11 回	意思決定手法の習得：システム思考（ソフト・システム方法論：SSM）② 適用事例を用いた検討	—	対面
	第 12 回	前回講義を踏まえた演習	—	対面
	第 13 回	意思決定手法の習得：納得できる意思決定のための方法① 概念と利用方法の説明	—	対面
	第 14 回	意思決定手法の習得：納得できる意思決定のための方法② 適用事例を用いた検討	—	対面
	第 15 回	前回講義を踏まえた演習と本講義全体のまとめ	—	対面
	試験	最終試験：意思決定理論や意思決定手法など講義内容に関する論述試験を実施する。	—	対面
成績評価	次の 4 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) ・講義後ワークシート提出 15 点 (1 点×15 回) ・個人課題提出 30 点 (15 点×2 回。ただし、1 回以上の提出は必須とする) ・グループ演習課題提出 30 点 (10 点×3 回。ただし、1 回以上の提出は必須とする) ・最終試験 25 点			
教科書・教材	適宜 LMS で配布する。			
参考図書	必要に応じて講義中に指示する。			